



雑司が谷旧宣教師館だより

第27号
2003年2月28日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎/FAX(03)3985-4081

雑司が谷の歴史と文化

雑司が谷旧宣教師館は歴史的建造物の保存・活用を第一の目的としていますが、ほかにも地域史講座「雑司が谷学事始め」を開催し、地域の歴史や文化の収集と紹介を行っています。今号より数回に分けて雑司が谷の歴史と文化の概略を紹介します。

明治時代末期から大正時代にかけて豊島区の交通機関は次々と整備（王子電気軌道、東上鉄道、武蔵野鉄道の開業、市電が巣鴨と大塚とを東京市内と結ぶ）され、人口が膨張し新興住宅地として発展していきます。

旧雑司が谷界隈（現在の目白・西池袋・文京区目白台の一部・南池袋を含む）では自由学園など学校の創設等が相次ぎ、また『赤い鳥』や『文芸春秋』が創刊され、作家、画家を志す若者にとって憧れの地域だったといえます。生前ここで創作活動を行い、今なおこの地に眠る人も数多くいます。雑司が谷の歴史と文化、まずは雑司ヶ谷霊園から始めましょう。

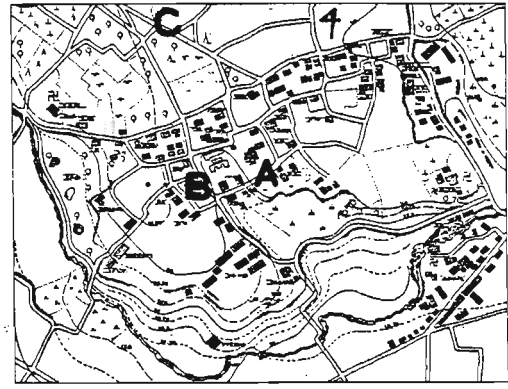
雑司ヶ谷霊園 ①

共同墓地の必要

明治時代、江戸が東京と改称され人口が増加し旧市街地の開発は加速します。このような状況の中で旧市街地における墓地拡張は困難であり、都市化の政策上から見ても好ましいものではありませんでした。そこで都心から離れているが、郊外地として遠すぎず、かつ一定の広がりを持つ土地が求められ、共同墓地が作られました。明治5（1872）年7月、青山百人町あたりと渋谷羽根沢村に東京府下における最初の共同墓地が生まれ、ついで青山の元郡上藩士邸跡地（注1）、雑司が谷の鷹部屋跡地、上駒込村の元建部邸跡地、深川数矢町の元三十三間堂跡地が指定されます。これらは前述の条件にみあう雑木林の続く広がりでした。

雑司ヶ谷霊園の開設

こうして区内に雑司ヶ谷霊園（10万6000㎡）、染井霊園（6万8000㎡）が作られました。墓地の使用は「方四半坪及至一坪」を平均とし、「二合半以下」の縮減を禁じています。これは旧市街地の墓地の多くが小さく乱雑化していることへの反省とみられます。使用料は一坪25銭から5円であり、「地二善悪ノ差等」があるためでした。使用料は半年毎に納めますが、永世分の一括納入も認め、あるいは埋葬資金のないものに対して公葬地を設けるなど公営墓地らしい配慮もなされていました。（注2）



大正5年(1916)頃の雑司が谷旧宣教師館周辺地図
Aは雑司が谷旧宣教師館。Bが雑司が谷学院。Cは現在夏目漱石の墓石があるあたりで、当時は苗畑や柿の木や竹林があった。


夏目漱石と雑司ヶ谷霊園

漱石は雑司ヶ谷霊園と実に縁が深い。『こころ』の主人公である私とその先生が、小説の中で墓参のために月一度訪れるのが雑司ヶ谷墓地です。そして漱石自身、明治44年末娘のひな子が亡くなった後、実家の吾提寺である本法寺に葬ることを拒み雑司ヶ谷に墓地を求めました。

大正5年12月9日、『明暗』を未完のまま残して漱石は亡くなり、安楽椅子を模したという大きな花崗岩のしたで眠っています。

雑司ヶ谷霊園の謎

雑司ヶ谷霊園には島村抱月、竹久夢二、泉鏡花、永井荷風、村山槐太、東郷青児等... 学者、作家、芸術家、政治家など書ききれないほどの著名人の墓があります。（4ページへ続く）

	花 木 名	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
1	水仙(白)	—————	(12/5 ~ 1/20)			
2	水仙(黄)			—————		(3/5 ~ 4/15)
3	サザンカ	—————		—————	(11/10~3/末)	
4	コトネアスター	—————	実(10/中~1/末)			
5	梅		—————		(2/中~3/上)	
6	クロッカス		—————		(2/中~4/上)	
7	夏日々草(似にアザミ)		—————		—————	(2/中~4/中)
8	沈丁花(シシヨウガ)			—————	(2/25~3/末)	
9	カラシコエ			—————	—————	(3/初~4/中)
10	アオキ			—————	—————	—————
11	當貴草(アザミ)		ジンチョウゲ	—————		(3/10~4/20)
12	花菖(ハナ)			—————		(3/10~4/5)
13	郁子(イ)			—————		(3/10~4/10)
14	木瓜(柿)			—————		(3/20~4/20)
15	白木蓮(ハクレン)			—————	(3/25~4/5)	
16	西洋梨(セイヨウリ)			—————	—————	(3/25~4/20)
17	乙女椿(オメバチ)			—————	—————	(3/25~4/末)
18	ドウダンツツジ			—————	—————	(3/25~4/末)
19	ユスラウメ				—————	(4/中~5/初)
20	台湾石楠花(ジャガ)				—————	(4/5~4/20)
21	西洋石楠花(ジャガ)				—————	(4/5~4/20)
22	ハクサンボク		ユリノキ		—————	(4/10 ~ 5/初)
23	ハナミズキ				—————	(4/10 ~ 5/初)
24	エビネ				—————	(4/10 ~ 5/初)
25	ブルーベリー				—————	(4/中~5/初)
26	オオムラサキ				—————	(4/10 ~ 5/初)
27	ユリノキ				—————	(4/15 ~ 5/初)
28	西洋バイカウツギ				—————	(4/15 ~ 5/初)
29	クロガネモチ				—————	(4/15 ~ 5/初)
30	グースベリー				—————	(4/15 ~ 5/初)
31	マリーゴールド				—————	(4/15 ~ 5/初)
32	定家葛(テイカカズ)				—————	(4/15 ~ 5/初)
33	ハコネウツギ				—————	(4/15 ~ 5/初)
34	カルミア				—————	(4/15 ~ 5/初)
35	バラ				—————	(4/15 ~ 5/初)
36	ガクアジサイ				—————	(4/15 ~ 5/初)
37	梔子(シシ)				—————	(4/15 ~ 5/初)
38	アペリア				—————	(4/15 ~ 5/初)
39	ノウゼンカズラ				—————	(4/15 ~ 5/初)
40	千両(セリヨウ)	—————		実(12/初~2/末)		
41	万両(マンリョウ)	—————		—————		実(11/中~3/中)
42	百日紅(ヒサシ)				—————	
43	藪薔(ヤブ)				—————	
44	珠簾(タマシ)				—————	
45	秋明菊(アキ)				—————	
46	萩(ハ)				—————	
47	金木犀(キン)				—————	
48	柃木犀(ヒ)				—————	
49	ソメイヨシノ				—————	(3/25~4/5)
50	ヤマザクラ				—————	(3/25~4/5)



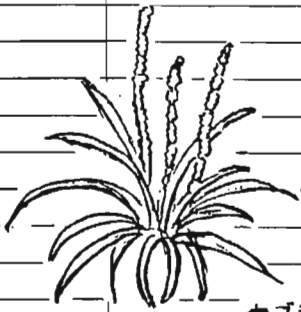
3月上旬の芽ぶき



シュメイギク



キンモクセイ



ヤブラン

四季の花ごよ

一昨年、漱石の研究者である東京大学の小森陽一先生に、「雑司が谷の魅力ー夏目漱石を中心にー」というテーマでお話していただきました。その中で小森先生は著名人の墓が多いという雑司ヶ谷霊園の謎を、『こころ』を引用しながらその謎解きをされました。

小森先生流の解釈によれば、「事情はともあれ、雑司ヶ谷霊園は故郷を捨てた（捨てざるを得なかった）人々の選んだ終の住処」ということでした。

なるほど生後間もなく養子に出され、養父母の離婚によりまた実家に戻るという不遇な幼少期を送った漱石は、墓地を求めるのに実家の菩提寺ではなく新設の共同墓地である雑司ヶ谷墓地を選んでいました。

しかしこれは名士の墓が多いという謎解きのひとつで、墓地の約9000基の墓碑には、それぞれの歴史が刻み込まれています。これらをひとつひとつ丹念に調べ上げ、『雑司が谷掃苔ファイル』（注3）としてまとめた人がいます。地元在住の多児貞子さんと、雑司が谷旧宣教師館事務所に寄贈本があります。ご覧になりたい方はどうぞ。



墓地のみどり、保存の今昔

明治7年、江戸時代の御鷹部屋跡に作られた墓地はその後東京の都市化による人口増加により、周囲の種苗園や畑地を整備拡張して現在にいたっています。墓地の中にみられるケヤキの大木は苗畑などの周辺に植えられていたものであり、当時のなごりをそのまま留めています。

昭和50年代、樹齢200年にもなる木が次々と伐採された時、「雑司ヶ谷墓地と周辺のみどりを守る会」（注4）が発足して都に請願を行い墓地のみどりは守られました。

平成8年には防災の視点から、墓地を取り囲む万年堀を緑化フェンスと生垣に変える工事が始まり、工事を行った外周部は1120mに及びました。平成12年工事は終了し、地域のボランティアによる「緑のこみちの会」が作られ、花を育て生垣まわりの定期清掃を行い、昨年には霊園内に古名案内板を設置するなど活発な活動を行っています。（注5）

雑司ヶ谷霊園は、緑少ない都心にあって住民の貴重な交流の場であり、雑司が谷の歴史と文化のまさに象徴となっています。

今回は実際に見た墓地の怖〜い話や、墓参りのエピソードなど、周辺のお花屋さんから訊ねたことを紹介します。お楽しみに。

注1、青山の地名の由来は、美濃郡上藩の青山大膳亮の下屋敷があったことに拠る。

注2、『豊島区史』（通史編二）参照

注3、「掃苔」とは墓石の苔を払いながらお参りすることの意。ファイルは50号までで調べた墓碑の人物は224人に及ぶ。

注4、代表・菊池寛長男の菊池英樹さん。昨年「三ノ地域展 不思議の森 雑司ヶ谷に棲んだ人々」をギャラリーールポリエで開催するなど、雑司が谷の魅力を再発見する活動も行っている。

注5、『まちづくりニュース』48号～55号（豊島区まちづくり公社発行）参照

— 近隣の建物紹介 — 椿山荘 三重塔

みなさんよくご存じの椿山荘...。広々とした庭園には、四季折々の花木や草花が咲いています。ふと立ち止まると石仏のやさしい顔に出会ったり、三重塔を見上げていたりしたことはありませんか？

この塔はもと広島県豊田郡入野村の竹林寺にあったもの。大正14年に藤田男爵によって買い取られ、現在の場所に移築されました。小振りな三重塔でありながら柱は規模のわりに太く、力強さが感じられます。

屋根は銅板葺き。天井は文様を彩色する格天井で、四方に切目縁、擬宝珠高欄を巡らし床下は亀腹を設けてあります。細部意匠から室町時代末期頃の遺構と推定されています。

庭園は散策自由ということですが、裏門に出ますと新江戸川公園になり、桜の頃はとてもよいハイキングコースになっています。

（所在地 文京区関口2-10） （角 田）

【編集後記】来る春に役立ててほしいと思い中庭の季節の花ごよみ作りしました。雑司ヶ谷の著名人墓石マップは次号に掲載します。墓地にまつわる話、聞かせてください。（文責 浜地）